



報道関係者各位

2022 年 5 月 23 日

P & G ジャパン 合同会社

P & G が 5 月 18 日（水）～19 日（木）の 2 夜連続で
『ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン』コラボセッションを開催

第 1 夜 NO YOUTH NO JAPAN インスタライブ

一人ひとりが生きやすい社会をつくるキーワード

「DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）」を知ろう

第 2 夜 ハフポスト日本版 オンラインライブ配信

これでいいの？「DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）」 みんなの悩みを徹底討論

DE&I の疑問を麒麟・川島明さん、ぺえさんら豪華ゲストがディスカッション
多様性を活かす社会へ、明日から実践できる小さなアクションを探る

＜アーカイブ配信も公開中＞

第 1 夜 https://www.instagram.com/tv/CdsvGFNhCoE/?utm_source=ig_web_copy_link

第 2 夜 <https://youtu.be/-4qmhWzMw7Y>

「対話と発展のための世界文化多様性デー」に先駆け、P & G ジャパン 合同会社（本社：神戸市／以下、P & G）は、「若者が声を届け、その声が響く社会をつくる」をキーワードとして掲げる団体 NO YOUTH NO JAPAN（<http://noyouthnojapan.org/>）および“会話を生み出す国際メディア”ハフポスト日本版（<https://www.huffingtonpost.jp/>）とコラボレーションし、2022 年 5 月 18 日（水）～19 日（木）、オンライン・ライブイベント【5/18（水）19（木）開催】2 夜連続 P & G コラボセッション「一人ひとりが生きやすい社会をつくるキーワード『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』を知ろう」および「これでいいの？『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』みんなの悩みを徹底討論」を開催しました。

第 1 夜 NO YOUTH NO JAPAN インスタライブ



第 2 夜 ハフポスト日本版 オンラインライブ配信





■【5/18（水）19（木）開催】2夜連続 P & G コラボセッションの開催について

5月18日（水）に開催した第1夜の NO YOUTH NO JAPAN インスタライブ「一人ひとりが生きやすい社会をつくるキーワード『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』を知らろう」では、一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表の能條桃子さんがファシリテーターを務め、イラストレーターの江崎びす子さん、編集者／アートディレクターの haru.さん、P & G ジャパン 執行役員の田中康之がゲストとして出席。翌19日（木）開催の第2夜、ハフポスト日本版 オンラインライブ配信「これでいいの？『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』みんなの悩みを徹底討論」では、お笑いコンビ・麒麟の川島明さんがファシリテーターを務め、タレントのぺえさん、ジャーナリストの治部れんげさん（オンライン参加）、能條桃子さん、P & G 人事統括本部 シニアディレクターの市川薫（オンライン参加）がゲストとして参加し、ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョンに関して日ごろ抱えているモヤモヤとした思いや疑問についてディスカッションするとともに、一人ひとりが明日から実践できる小さなアクション、そして目指すべき社会の姿について積極的な意見交換を行いました。

「D&I」や「多様性と包括」とも表現される「ダイバーシティ&インクルージョン」、そして「平等」を意味する「イクオリティ」という言葉は、ここ数年で社会に浸透し生活の中で耳にする機会も増えてきました。その一方、DE&I に対し「共感の気持ちはあるけれど、具体的な方法やゴールがよく分からない」「流行語のように語られるけれど、形式だけになっているのでは？」といった戸惑いや疑問の声も聞かれるようになっており、モヤモヤとした気持ちを抱えている人も多く存在しています。

そこで P & G は、NO YOUTH NO JAPAN、ハフポスト日本版とコラボレーションし、DE&I を目指した企業の取り組みを具体的に知って実態の理解度を上げ、社会・企業との隔たりを越えること、言葉だけでなく行動でインクルージョンすること、そして個人としてできることを有識者やゲストと共にディスカッションし、視聴される皆さまにモヤモヤを解消していただくことを目的とした「【5/18（水）19（木）開催】2夜連続 P & G コラボセッション」を開催しました。

■第1夜（5月18日） NO YOUTH NO JAPAN インスタライブの様子

「一人ひとりが生きやすい社会をつくるキーワード

『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』を知らろう」



能條桃子さん
(ファシリテーター)



田中康之
(P & G)



haru.さん



江崎びす子さん

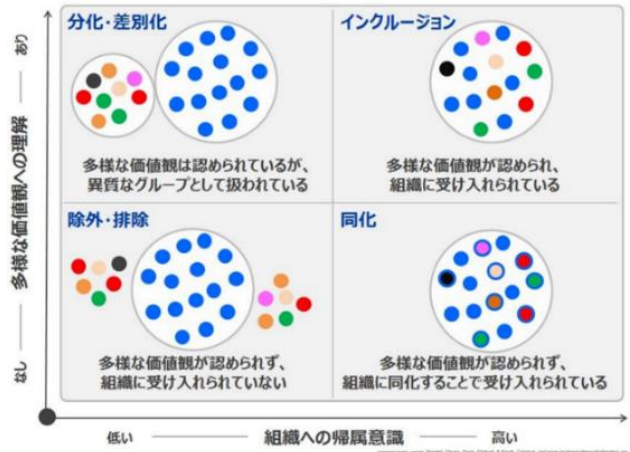


インスタライブの配信画面



●トークテーマ1：「イクオリティ&インクルージョン（E&I）」ってなに？

オープニングでのあいさつに続き、ファシリテーターの能條さんが田中に対して質問を投げかけ、D&I や E&I の意味、またそれらの違いについて解説が行われました。田中は多様な“価値観への理解”と“組織への帰属意識”を軸として表したパネルを用いながら、「みんなが似たような考え方で行動するよりも、それぞれの違いを生かしお互いが認め合って多様な意見を出す。その中で共通した目標を持ち、一つの方向性を向いている状態を『インクルージョン』と考え、組織として最も高いパフォーマンスが出せる状態です」と、D&I や E&I について P & G が考える理想的な状態を紹介すると、ゲストの haru.さんは「『多様性』って言われた時も言葉が先行していた感じがあって、さらに『インクルージョン』とか、短縮されて『I』と言われると分かりにくく感じますが、それが自分たちのためにある社会的な動きであることをみんなで話しながら認識できたらいいなと思います」と前向きな言葉で、ディスカッションに臨む気持ちを話しました。



●トークテーマ2：E&I が実現している景色って？

視聴される方々に向けた「自分の普段の生活を思い出してもらって、周りでは E&I が進んでいると思いますか？」という質問から始まったトークでは、世の中で認識されている「E&I」と、身の回りで起きていることで感じているギャップや違和感について意見の交換が行われました。haru.さんは自身と友人の体験から、さまざまな施設のトイレで男性用と女性用しか選択できず、自分が入りやすいと思えるトイレが少ないことに触れながら「多くの学生が生活する大学という場所でも、自分のベストパフォーマンスを発揮できる環境ではないことを実感しています」と話し、就職活動で個性を出すよう促されても服装やマナーのルールに縛られてしまうなど、身近なところで考えたいことが多いと指摘しました。それを受けた江崎さんは、男性用トイレにメイクスペースがなく不便を感じる人が多いとしながらも、「渋谷区のある商業施設には男性用トイレにもメイクルームがあり、平等に捉えていいなと思います」と、身近で感じた E&I の達成例を紹介。田中も「まず、お互いを知ることが大事だと思います。同じ立場ではない人間が全てに気付くことは不可能だと思うので、やはり誰かがどこかで声を出し、それを聞いて誰かがアクションをとってくれる状況が大事だと改めて思いました」と共感を示しました。

能條さんは、男女格差の大きさを国別に比較した“ジェンダーギャップ指数”など、さまざまなデータを基にした事例も挙げ、2021 年は日本が 156 カ国中 120 位（G7 最下位）であったほか、特に政治（147 位）や経済（117 位）の分野で男女差が大きいこと（※グローバルジェンダーギャップレポート 2021 より）を紹介。LGBTQ+ については、日本各地で認知が拡大しつつあるものの、「G7 で唯一、同性婚が制度化されていない国」であることや「性的マイノリティに対する基本的な人権を定めた法律」がないことなど、日本の課題についても話し合われました。さらに障がい者雇用に関する事例では、増加傾向にある中でも 2021 年の民間企業は実雇用率 2.2%と、法定雇用率 2.3%を達成した企業の割合が 47.0%にとどまっていること（※厚生労働省「令和 3 年 障害者雇用状況の集計結果」より）も解説しました。

●トークテーマ3：P & Gを事例に E&I について深掘る

E&I の実現に向けて企業や組織の取り組み、または活動が重要になるという話題では、haru.さんが「マイノリティの人たちが守られる環境を大きな組織がサポートしていくのは大事。弱い立場の人たちに『個人で頑張らましよう』と言っても限



界があり、連帯を表明して具体的に動かないと結局は当事者任せで改善されない」と、まだまだ改善の余地が多い現状や自身の思いについて語り、能條さんは、「多様性と言いつつ、マイノリティがいつも歩み寄らなければいけない」という意見が視聴者から寄せられていることを紹介しながら「個人がマイノリティ側として声を上げるにはエネルギーもいるし、聞いてくれる人ばかりではないからこそ、仕組みや制度になることが重要。企業は社員個人の裁量に任せるのではなく、みんなができるように対応してほしい」と呼びかけました。

田中は、「一つ目は“文化”。組織が持っている文化として多様性を認め、困っている人がいたら助けること。もう一つは“制度”。進んでいきたいキャリアのバリアにならないことが大切で、産休明けの人のサポートや障がいのある人へのサポートなど福利厚生制度です。もう一つが“スキル”です。これは個人としてやっていけるところで、特別な職種の人だけでなく、悩みを聞いて理解して一緒に改善するスキルを社員みんながつけていくことが大事だと考えています」とP & Gが必要だと考える三つの項目を挙げ、さらに「この三つの観点で女性の登用やジェンダーのバランス、平等性を考え、組織の中で少数派ではなく多数派を占めるようなバランスをとっていくことを最初にやりました」と、女性の比率を上げることで男女の不平等をなくす活動に取り組んだことを明かし、さらに育休を当たり前のように取得することができる制度を推進して文化にすること、さらに産休明けの社員には積極的にメンターをつけ、ケアできる環境が整うよう積極的に取り組んだことを紹介しました。また、「LGBTQ+の方々をより理解し、会社の中で力を発揮してもらえる環境を整えるため、声を聞くことを始めました。自分の性自認や性的指向を自ら公言できる人は少ないので、日常生活や仕事でどんな時に困るのか、どんな時に良かったと思ったかを具体的に聞くことで、社員みんなで理解を広げる活動をしました」と近年の取り組みについて話し、支援者・味方である「アライ」を募る活動を続けていることも紹介しました。江崎さんは、自分の属している企業にカミングアウトしたくないマイノリティが多いことに触れながら、「そういう方々がカミングアウトしなくても生きやすい仕組みを作らなければいけない。相談したくない方もいる。本当のセクシャリティを明かしたくない人のためにマニュアルを作るのではなく、マニュアルを作らない『臨機応変』な対応をすることが多様性を認め合う社会になると思う」と力説しました。

●トクテーマ4：わたしたちにできること

「わたしたちが明日からできることは？」と、ここまでの内容を踏まえたテーマでは、友達同士のコミュニケーションや学校・職場の一員など、さまざまな立場で意見の交換が行われました。江崎さんがあらためて「どのセクシャリティであるか本人がカミングアウトしたくない以上、どこに当てはまっても大丈夫な言い方を考えてあげたい。日本はルールがガチガチなので、もっと柔らかく、その都度その人に合った対応をしてほしい」と訴えると、田中は「これほどの熱量でいろんな意見を聞けることはあまりなかった。私もこういう場でもっと意見を聞いて、皆さんが自分らしくいられる環境をもっとつくってほしい」と述べました。江崎さんは、「自分を認めてほしいわけではなく、否定しないでくれればいい。少数派の方々のほとんどがそうだと思うけど、自分のことを理解してほしいわけでもないし 100%わかってほしいわけではなく、ただただ否定されたくないだけ。そのシンプルなことできていれば、かなり世界が変わるんじゃないかなって思います」と自身の気持ちや理想について話し、haru.さんは、パジャマのズホンをはいて大学の講義を行ったエピソードに触れながら「『普通の先生はそんな格好しない』みたいなところに小さな“バグ”を生んでいく。それを続けたら、それがあつた種の普通になるんじゃないですか。教室の中ではそれで成立しているし、それはそれで一つの在り方」と、自身が行っている活動を紹介しました。

クロージングでは、haru.さんが「言葉を大事にするという点で、私が会社のモットーのように言っているのは『みんなそれぞれアーティスト』ということ。作品を作るアーティストではなく、社会をつくる一員という認識を持って日常的に会話をしたり、消費者として何を選び取っていくか、生活の中での意識的な選択をそれぞれできていくといいなと思っています」と述べました。また、江崎さんが「テーマを覆すようなことを言ってしまうんですけど…」と前置きしながら、「そもそも『DE&I』という言葉自体がキャッチーじゃないと思う。この意味をもっと広めるなら、若者とかアンダー30世代に意味が伝わりやすい言葉を作ら



ないと。流行語になるような寄り添った感じの言葉で多様性を発信していく必要があるのかな。すごい分かりやすい言葉にして世間にどんどん発信して行く必要があるなと思います」と意見を述べると、田中は「『インクルージョン』を日本語に訳そうとしたら適した日本語がありませんでした。うまく説明できる言葉がなかったけど、それは言い訳なので…」と反省しながら、「一人ひとりが“メディア化”していて、個人の発言が世の中に影響を与えるようになっていきます。悩まれている方も、勇気を持って自分の意見を言ってみると、周りにサポートしてくれる人がきっと出てくると思います。皆さんからどんどん発信することで、皆さんにファンになってもらいたい会社や製品を買ってもらいたい企業にもプレッシャーをかけられます。今日を機会に自分らしくいられるよう積極的に発言していただければ、それが相手のためにもなります」とまとめ、イベントを締めくくりました。

■第2夜（5月19日） ハフポスト日本版 オンラインライブ配信の様子

「これでいいの？『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』 みんなの悩みを徹底討論」



オンラインライブ配信の様子（左写真から 能條さん、市川さん、ぺえさん、治部さん、川島さん）

●オープニング

ファシリテーターの川島さんがテーマを紹介し、第2夜のオンラインライブがスタートしました。第1夜でファシリテーターを務めた能條さんはアンダー30世代の意見を届けるゲストとして参加し、「第1夜では『DE&I』を初めて聞いた」という（視聴者の）声も多く、『モヤモヤ感じることが結びついてた』という反応もあったので、今日はその話もしたい」とあいさつ。P & G社員でアライ育成研修などに携わっている市川は、「会社は一日の長い時間を過ごすので、いろんな悩みが現場から寄せられます。それを皆さんに共有しつつ回答を模索したい」と話し、LGBTQ+の当事者でもあるぺえさんは「DE&Iは自分ごととして、日々模索しながら生きていますが、こういう堅苦しいテーマは見ている方も入ってきにくいと思うので、そうした“殻”も破りたい。今日一日で答えは出ないので、たくさんの意見を共有できたらいいと思う」とコメント。DE&Iの取材や研究を続けているジャーナリストの治部さんも「かつてダイバーシティだけだった言葉にインクルージョンやイクオリティも付いて、カタカナで長いという印象ですが、『個人が自分らしく生きたい』とか『自分の好きなことをしたい』と、ひらがなで言うと学生も分かってくれるので、そういう話を皆さんとしていきたい」と話しました。

●トピック① DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）とは？日本の現状と課題

「DE&Iは多様性などを総合して表現してるけど、ぼんやりした言葉にも感じる。今までは間違った隔たりや仕切りがあったかもしれないけど、少しずつ分かっていかないといけない。ちょっとした言葉で人を傷つけてしまうこともあるからボクも勉強したい」という川島さんの言葉から始まったディスカッションでは、ぺえさんが「多様性という言葉が世の中で増えた瞬間、いい言葉だと思ったし明るい未来が待ってると思ったけど、言葉が独り歩きし過ぎると自分勝手な世の中になってしまいそう。最



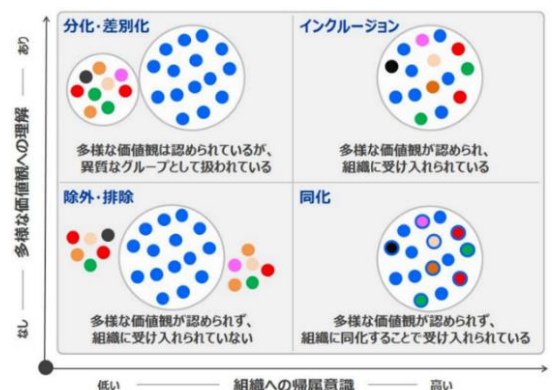
近はどこまで認めてどこから認めるべきじゃないのかを考えて、多様性と向き合うようになってきました」と自身が感じていることについて発言し、能條さんも「（年齢層の高い）企業の会議に呼ばれると、若者がいるというだけで『多様性だね』『ダイバーシティだね』って言われるんです。いるだけで多様性って言われても…と思いますが、話しやすい会議や意見を聞いてもらえる時はすごくいいなって。そういうのがインクルージョンかなと理解しています」と、学生という立場での意見を述べました。

続いて治部さんが DE&I の意味について解説し、川島さんからは日本の“ジェンダーギャップ指数”が 156 カ国中 120 位と男女格差が大きいこと、同性婚が制度化されていないほか、性的マイノリティに対する基本的な人権を定めた法律が整備されておらず LGBTQ+ の面で遅れていること、障がい者の法定雇用率を達成した企業の割合が 47.0%であることなど、DE&I の現状と課題についても紹介が行われました。

LGBTQ+ のイベント「レインボープライド」に参加した経験を持つぺえさんは、「いろいろな生き方やセクシャリティの人間がいることを知ってもらうきっかけとしてはいいけど、一歩先の『認める』ところに向かっていくにはどうしたらいいんだろう。“押し付け”にならないようにしてほしいと、当事者だからこそ思います」と意見を述べると、能條さんは「企業もレインボーにしてそれで終わり…で、同性婚ができないとか差別発言が出てくると、あれは何だったの？ってなります。当事者だけでなく、みんなが広めていくことが大事」とコメント。社内・社外でのインクルージョン研修や社内でのアライコミュニティ立ち上げに携わっている市川は、「最初は否定しないところから入り、認知をして“その先”に何があるかを考え、それを生かしてポジティブなパワーにつなげていくにはどうしたらいいかという研修を行い、社長や役員、管理職、一般社員まで異なるトレーニングメニューを用意しています。“その先”の行動が取れるようにすることを、全社員に対して行っています」と P & G の取り組みについて話しました。第 1 夜でも同じ事例について話し合った能條さんは、「“彼氏”や“彼女”じゃなくて“パートナー”と言った方が傷つく人が少ない。私の周りでは、みんな“パートナー”と言っている感じです。時代の変化の中で、常識が変わってきた部分もあると思う」と身近な現状について語ると、川島さんとぺえさんも自身のエピソードを挙げて共感を示しました。治部さんは、このように相手のパートナーが異性だと決めつけてしまう「無意識の偏見（＝アンコンシャス・バイアス）」は、誰にでもあると話し「昔、記者として取材に行った先で 2 名の男女を見て、無意識に男性が社長だと思い込み、間違った相手に名刺を先に渡してしまった」と自身の経験を踏まえて語りました。

●トピック② DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）のため、明日から始める小さなアクション

「悩みや戸惑いの声が尽きることがない。実際にボクらは何をしたらいいんだろう。考えるヒントを教えてほしい」という川島さんの言葉を受けた治部さんは、「個人では変えられないと思っている方が多いと思いますが、実は個人って大事だと思います。自分が当事者でない立場のときに声を上げることで、当事者も勇気づけられることがある。直接その話に介入することが難しくても、違う話題に変えていくようなアクションもできる」と語り、また、無意識の偏見（＝アンコンシャス・バイアス）や企業の社会責任について解説しました。市川は「自分がどのステージにあるのかを理解することが大切」とした上で、インクルージョンについて“多様な価値観への理解”と“組織への帰属意識”の軸による 4 象限で表した図を用いて説明すると、ぺえさんは「よく『男の気持ちも女の気持ちも分かるでしょ？』と言われるけど、私は自分の気持ちしか分からない。だから（その人の属性だけで判断されてしまう“分化・差別化”の状態と）とても近いものを感じた」と大きくうなずきながら語り、治部さんと能條さんも体験談を交えながら意見を交換しました。





Q&A のコーナーでは「自分らしさを大事に仕事をしていきたいと考えていますが、どうやって企業を見分けたらよいのでしょうか？」という質問に対し、能條さんが「自分らしく働くには、まず自分を知ることが重要。自分が求めていることをしっかり確認して就職活動の時に聞き、自分が好きな方に行くのがいい」とアドバイスしたほか、「個人で DE&I について取り組みたいと思っていますが、どんなことから始めればいいのでしょうか？」という質問に、市川が「無意識のバイアスは誰にでもあることを理解して、間違いを起こすかもしれないと認識しておくことが大事。自分を知るためにフィードバックをくれる人を大事にしたり、意見を言ってくれる人と関わったりすることも必要」と回答すると、治部さんも「人のことは気付きやすいけど、自分のことには気付きにくい。全員が無意識のバイアスを持っているので、本音を言ってくれる人をなんとかして確保してください」と同様の意見を述べました。

エンディングでは、能條さんが「本当に『正解がない』と思いました。年代差など状況によって全然違うし、考え続けていきたい。『自分が正義』と思わず、相手の気持ちも考えてやっていきたいと改めて思いました」と話し、市川は「多様性やインクルージョンは難しい課題だと思う。自分と似た背景で、多様な価値観を持った人の中で生きられたら幸せなのかもしれないけれど、それを乗り越えていかないといけない。『失敗も付きもの』と認識しておかないと、うまくいかず諦めなくなってしまう。忍耐強さも必要だと思いました」と語りました。また、ぺえさんは「みんなが寄り添う気持ちで同じものを考えようっていう意識で臨めたので、すごく楽しかった」と感想を話し、治部さんは「同性婚が早くできるようになればいいという話題には完全に同意で、早く法制化するために若い世代の人の声をもっと政治に伝わってほしい。『多様性のその先』の話もあって、仕組みを作るとか政策を作ることにつながったらいいなと思いました」とコメント。最後は川島さんが「ちょっとモヤモヤしていた方も、悩みの解決、もしくはヒントになる言葉があったと思う。正解はないから、みんなで正解を作る。もしくはそれを追い求めていく作業だと思うので、これがきっかけになればという思いでお届けしました」とまとめました。



■ 開催概要

- タイトル 【5/18（水）19（木）開催】2 夜連続 P & G コラボセッション
＜第 1 夜＞ NO YOUTH NO JAPAN インスタライブ
「一人ひとりが生きやすい社会をつくるキーワード
『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』を知ろう」
＜第 2 夜＞ ハフポスト日本版 オンラインライブ配信
「これでいいの？『DE&I（ダイバーシティ・イクオリティ&インクルージョン）』
みんなの悩みを徹底討論」
- 主催 P & G ジャパン合同会社
- 共催 一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN
BuzzFeed Japan 株式会社 ハフポスト日本版
- 実施日時 ＜第 1 夜＞ 2022 年 5 月 18 日（水）20 時～21 時
＜第 2 夜＞ 2022 年 5 月 19 日（木）20 時～21 時
- 登壇者 ＜第 1 夜＞
ファシリテーター 能條桃子（一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表）
ゲスト 江崎びす子（イラストレーター）
haru.（編集者／アートディレクター）
田中康之（P & G ジャパン合同会社 執行役員）
＜第 2 夜＞
ファシリテーター 川島 明（麒麟）
ゲスト ペエ（タレント）
治部れんげ（ジャーナリスト）※オンライン参加
能條桃子（一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表）
市川 薫（P & G ジャパン合同会社 人事統括本部 シニアディレクター）※オンライン参加

■ 見逃し配信のご案内

- 開催当日にリアルタイムで視聴できなかった方に向けてアーカイブ配信を実施しています。
＜第 1 夜＞ https://www.instagram.com/tv/CdsvGFNhCoE/?utm_source=ig_web_copy_link
＜第 2 夜＞ <https://youtu.be/-4qmhWzMw7Y>

■ P & G について

P & G は、高い信頼と優れた品質の製品ブランドを通じて、世界中の人々の暮らしに触れ、よりよいものにしています。日本では、衣料用洗剤「アリエール」「ボールド」「さらさ」をはじめとして、柔軟剤「レノア」、エアケア製品「ファブリーズ」、台所用洗剤「ジョイ」、紙おむつ「パンパース」、吸水ケアブランド「ウイスペー」、ヘアケアブランド「パンテーン」「h & s」「ヘアレシピ」、スキンケア製品「SK-II」、シェーブケアブランド「ジレット」「ブラウン」、オーラルケアブランド「Oral-B by Braun」など、様々な製品を提供しています。